

兵庫県立西宮病院 地域医療連携室便り

はまかせ

2010年8月
第18号

「兵庫県立西宮病院眼科の紹介」

眼科部長 岩橋 佳子

眼科は目という小さい組織の診療を行う科ですが、情報の90%は視覚から入るといわれており大変重要な組織です。小さくて精密な眼球という器官に魅せられて日々診療に励んでおりますが、今回は日々の診療の中で大きなウェイトを占める白内障手術について詳しく紹介させていただきます。

白内障は水晶体が混濁する疾患です。水晶体は瞳孔のすぐ後ろにある直径約10mm、厚さ4.5mmのレンズで加齢と共に硬化・混濁が始まり、70才以上のほぼ全員に何らかの混濁が見られます。瞳孔から見える範囲、中央部分の混濁が始まると常に混濁したレンズを通して物を見ることになり、かすみやまぶしさといった自覚症状が現れます。白内障手術では混濁した水晶体を取り除き、代わりに眼内レンズを挿入します。レンズを入れ替える手術です。

高齢化社会の到来で手術件数はますます増加しており、技術と機器の進歩により「開眼手術」からより良い視力をめざす「クオリティ・オブ・ビジョン」の手術へと変化しています。

手術適応

30年前までは眼内レンズ挿入が一般的でなく水晶体を摘出するのみでしたので、術後裸眼視力が不良で強い凸レンズの眼鏡かコンタクトレンズ装用が必要でした。そのためかなり視力が低下するまで(0.1以下)手術を行いませんでしたが、現在は日常生活に不自由を感じれば手術適応としています。個人差がありますが、例えば車の運転をする場合0.7の視力が必要ですので、これを下回れば手術適応ですし、1.0の視力があっても水晶体混濁が強く眩しさを強く訴える場合などは手術の適応です。大体0.5-0.6程度で手術を受けられる方が多い様です。

小切開・低侵襲手術

水晶体摘出は20年前までは丸ごと行っていたので切開創が11-12mm必要でしたが、現在は水晶体を砕いて吸い取る超音波乳化吸引を行うことで器械の先が入る大きさだけ切開すれば良く、2.5

mm 前後の小切開で済みます。眼内レンズのレンズ部分（光学部）の直径は6 mm が主流ですが、これも以前はハードコンタクトレンズと同じ素材の硬いレンズで6 mm の切開が必要でしたが、アクリル、シリコン素材のソフトレンズの登場で2-3 mm の小切開創を広げることなく挿入が出来、乱視の軽減など術後視機能の改善と手術時間の短縮に大きく寄与しています。以前は30-60分を要した手術が、現在では10分前後で終わります。麻酔も以前は球後注射を行っていましたが、現在では殆どが点眼麻酔のみで手術可能となりました。

出血のリスクも低減し、抗血小板剤・抗凝固薬治療中の方も殆どの場合薬を中止することなく手術が可能です。

また、以前は糖尿病で血糖コントロールが不良な症例では十分に血糖コントロールを行ってからでないと強い術後炎症が惹起され、網膜症の急速な進行など予後不良な場合がありましたが、低侵襲手術となりコントロール不良のまま手術を行っても予後に大差はなくなっています。

この様に短時間・軽い麻酔で患者の負担は軽くて済むようになったため、ともすれば「白内障手術は簡単だ」との誤解があるようです。しかし、以前と比べ決して簡単になったわけではなく、むしろ繊細な技術が要求されます。前述した様に術前視力が良好な場合が増え、患者側の期待も高くなっています。「手術は短時間で終わり、術翌日から見えて当然」という期待の中、特に手術をこれから学んでいく若いドクターには実地での技術習得が厳しい環境になってきたと感じています。

この様な中でトラブルなく患者の満足を得るためには疾患や手術に対しての十分な理解と相互の信頼関係が重要と考え、当科では術前に説明会を行っています。手術の1か月程度前に来院していただき、まずビデオで白内障の病態と手術の説明、次いで数人ずつ家族と共に医師から一般的に起こりうる合併症に付いての詳細な説明、最後に執刀医から個々人に特有の病状や合併症の説明を行っています。高齢者が多いため説明は丁寧に時間をかけて行い、出来るだけご家族に同席していただく様にしています。

最近日帰り手術を行うクリニックも増えてきましたが、当院は地域の基幹病院であり全身的な合併症をお持ちの方も多く、最低1泊をしていただいています。1泊の場合退院翌日に外来受診していただいています。外来通院が困難な方は片眼4泊、両眼8泊が基本のスケジュールです。現在手術待ちのスケジュールにより異なりますが、3か月程度です。

最後に、最近の眼内レンズの進歩につきご紹介します。

現在当科で採用している眼内レンズは小切開創から挿入可能なアクリル性で、単焦点のレンズです。これが多くの施設でのスタンダードですが、最近遠近両用眼内レンズが登場してきました。レンズの光学的特性により屈折型と回折型の2種があり個々の症例で選択します。明視域での見え方は単焦点レンズが勝っており、独特のにじみなどまだ解決すべき問題はありますが、眼鏡なしで遠方・近方とも明視できることから眼鏡をかけたくない方には大きな福音です。ただしレンズ高価格で保険診療では扱うことができず残念ながら当科では採用に至っておりません。

また、小切開となり手術で生じる乱視は減ってきましたが、術前からある乱視は術後も残存し、術後裸眼視力不良の原因となっています。これを軽減するために眼内レンズに乱視度数の入った乱視矯正レンズが発売され、当科でも採用を検討しています。

以上、最近の白内障手術につき述べさせていただきました。

当科では白内障手術が全手術の9割を占めていますが、その他の手術にも積極的に取り組んでいます。以下に現在の眼科常勤医3名の自己紹介を兼ねてご紹介させていただきます。

部長：岩橋 佳子（いわはし よしこ） _____

1985年和歌山県立医科大学卒 眼科専門医

専門は網膜硝子体疾患。特に糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などメディカル網膜疾患の診断・治療を行っています。高齢化社会の到来と共に加齢黄斑変性が中途失明原因の上位にランクされ注目を集めていますが、蛍光眼底造影検査などで診断が可能です。今後抗 VEGF 治療の開始を検討しています。その他網膜剥離、黄斑上膜、黄斑円孔など手術が必要な疾患も積極的に治療しています。

医長：下條 裕史（しもじょう ひろし） _____

1999年大阪大学医学部卒 眼科専門医

専門は小児眼科、神経眼科。

大阪大学医学部附属病院で、不二門教授の下で小児眼科、神経眼科を専門にしておりました。昨年7月に赴任し、外来、手術ともども当院のシステムに慣れてきました。斜視は小児、大人を問わず、その他弱視治療や神経眼科疾患の症例のご紹介をお待ちしております。

専攻医：照林 彩（てるばやし あや） _____

2007年近畿大学医学部卒 眼科専攻医

2年間の初期研修後、1年間大阪大学眼科で研修し、今年4月より当院に勤務することとなりました。はじめての外来・手術と戸惑うことばかりですが、毎日大勢の患者様と接し、学ぶことが多く、充実しています。

まだまだ未熟ですが、やる気・体力で今後更に眼科を盛り上げていければと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

眼科専攻2年目で、一般診療を中心に幅広く知識と技量を磨いています。

以上3名の常勤医の他、宇山 令司、先山 由喜、荒木 章之の3名の非常勤医師に外来・検査を手伝ってもらっています。

小所帯ですが、少しでも地域の先生方のお役に立てるようこれからも頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いたします。

医師の紹介

—— 赴任医師からの挨拶 ——

外科

矢野 浩司

平成22年4月に赴任してきました参事（地域医療連携担当）兼外科部長の矢野浩司です。専門は消化器外科です。NTT西日本大阪病院で15年間、外科部長を歴任後当院にやってきました。武庫川以西の兵庫県阪神地区での就職は初めてです。

フレッシュな気持ちでがんばりたいと思いますので宜しくお願いします。

耳鼻咽喉科

宇野 吉裕

平成22年4月より耳鼻咽喉科に赴任いたしました宇野吉裕です。平成9年に大阪大学附属病院にて臨床研修をスタートした後、大阪大学医学部大学院に進学し、前庭系の仕事に従事しました。その後住友病院に勤務し、めまい外来を担当しつつ耳鼻咽喉科医としての臨床経験を積ませていただきました。

当科は、倉増医師との二人体制で耳鼻咽喉科疾患全般に渡り診療しています。手術の必要な患者様はもちろんのこと、めまいや止血困難な鼻出血、急性炎症で、精査や入院が必要な患者様に対しましても可能な限り対応させていただきますのでご遠慮なくご相談していただけたらと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

～第2回 県立西宮病院 県民公開講座のご案内～

日時：平成22年9月11日（土）13：30～15：30

場所：西宮市民会館 中会議室

内容：がんフォーラム

「胃がんは、今、どこまで治る？」 外科部長 矢野 浩司先生

「子宮頸がんの予防をしよう！」 産婦人科部長 信永 敏克先生

参加費：無料

～県立西宮病院 講演会のご案内～

日時：平成22年9月3日（金）18：00～19：30

場所：西宮市民会館 中会議室

テーマ：「肺血栓塞栓症予防の最新知見と取り組み（仮）」

参加費：無料

「兵庫県立西宮病院の基本理念および基本方針」

【基本理念】

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を提供することによって、地域社会に貢献します。

【基本方針】

1. 患者さんを中心としたチーム医療を推進します。
2. 地域と連携した急性期医療を提供します。
3. 救急医療（二次、三次救急、小児救急）に精力的に取り組めます。
4. 臓器移植、特に献腎移植を推進します。
5. がんや生活習慣病の予防と早期発見・早期治療に努力します。
6. 少子化時代にあって周産期医療、母子医療を重視します。

— 編集後記 —

今年の夏はW杯で始まり、気がつけば、夏の甲子園もそろそろ佳境になってきました。
とはいえ、甲子園の浜風はまだまだ夏の風です。
「はまかぜ8月号」も、盛夏のごとく、熱く燃える職員の熱意で完成しました。
みなさまのご意見、ご感想などお待ちしております。

(薬剤部 田中雅子)



兵庫県立西宮病院

〒662-0918 西宮市六湛寺町13番9号
電話(0798)34-5151(代表) FAX(0798)23-4594
地域連携室直通 FAX(0798)34-4436
地域連携室 E-mail chiiki-kg@hp.pref.hyogo.jp